



吉崎別院便り

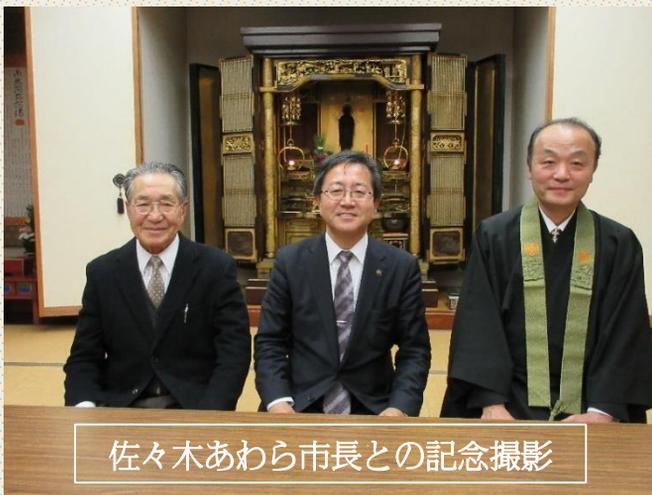
バラバラでいっしょ！

になれるところ

第2回蓮如の里・吉崎連絡会議が開催！



熱気を帯びる会議の様子



佐々木あわら市長との記念撮影

御影道中の日本遺産登録へ前進！

～大河内肇氏が提唱～

御影道中の宰領を経験された、御影道中協力会役員の大河内肇氏（福井県）が会議に出席し、かねてから提唱している「御影道中の日本遺産登録」についての思いを語りました。今後は、同じく日本遺産登録を目指している一般財団法人との意見交換を積極的に行い、道中の更なる発展を図ります。

次頁、県民福井新聞の記事を掲載

「吉崎復興」行政機関と確かな連携
1月23日、当別院を会場として「第2回蓮如の里・吉崎連絡会議」が開催され、昨年11月に開催された第1回会議に続き、佐々木康男あわら市長をはじめ、吉崎町内区長や町内の寺院方など約25名が出席をしました。冒頭の挨拶で五辻輪番は、毎年御影道中の吉崎お着き（4月23日夜）の際、蓮如上人の御影をあわら市長自らお迎えいただくことに謝辞を述べた上で、参加者一同へ当別院来訪に対する歓迎の意を伝えました。会議では、吉崎町内区長・末富攻氏が、3月に観光まちづくり団体（一般社団法人）を立ち上げ、その最初の事業として蓮如上人御忌法要期間中（4月23日から5月2日）のいずれかで「まちあるきイベント」を主催するなどの取り組みが伝えられ、吉崎の活性化に向けた連携が確認をされました。



大河内肇氏

吉崎「再興」宗派を超えて

浄土真宗中興の祖・蓮如上人(一四一五〜九九)が北陸布教の拠点とし、中世の宗教都市として栄えたあわら市吉崎エリア。休校中の吉崎小学校を核に活性化を目指す住民の熱意に、地元寺院や財団が宗派を超えて手を携えることになった。連携第一弾として、蓮如上人の肖像画「御影」を迎え、法要が営まれる四月二十八日にまちあるきイベントを開く。

(北原愛)

寺院、財団、住民が連携

あわら 4月にイベント

同エリアでは昨年九月、吉崎、浜坂両区の住民が休校舎の運用や事業展開に向けて観光まちづくり団体の設立準備を始めた。「吉崎では寺院の参画が欠かせない」と、浄土真宗本願寺派、真宗大谷派の両吉崎別院に吉崎寺、願慶寺、本願寺文化興隆財団の代表者を交えた会合を同十一月に開き、連携を打診してきた。

二十三日の会合には、吉崎地区区長会長の末富攻さん(六七)、浜坂区長の堂野実さん(七七)、市や各寺院・団体の代表ら二十二人が出席。末富さんが「三月に観光まちづくり団体を立ち上げ、蓮如忌やGobou市でにぎわう四月にイベントをやりたい」と説明し、寺院・団体側が事業への参画を快諾した。

まちあるきイベントは参画する寺院や吉崎御坊蓮如上人記念館を巡り、北潟湖クルーズを体験。昼食は吉崎小で報恩講料理を予定している。定期開催に向けた試験的な開催と位置付け、二十人程度を募集する予定。出席者からは「記念スタンプや御朱印を押す台紙をつくらせてはどうか」「外国人も誘致しては」と積極的な提案があった。

宗教都市・吉崎の歴史や蓮如の足跡を研究し、京都と吉崎を結ぶ観光ルートづくりや、県内外に散らばる蓮如上人ゆかりの地域、寺院とのネットワーク構築も進める。佐々木康男市長も「吉崎の歴史や自然、食は重要な観光資源。教育旅行の誘致や市街地とのアクセラス向上などで後押ししたい」と支援を約束した。

真宗大谷派吉崎別院代表の五辻信行さん(六五)は「四月には本堂の大改修も終わる。タイアップして活気を生みだしていきたい」と話し、末富さんは「吉崎にぎわいを取り戻す最後のチャンス。皆さんの知恵をお貸し願いたい」と声を弾ませた。



吉崎エリア活性化に向け、意見を交わす出席者たち。23日、あわら市の真宗大谷派吉崎別院で